



かたしろ 形代

弥生時代には、武器、鳥、船などの木製の模倣品を作り、これを祭具として用いた祭りが行われます。それぞれ武器形木製品、鳥形木製品、船形木製品といいます。

武器形木製品

金属製の武器類（剣・矛・戈・刀など）を模倣したもので、それぞれの形の特徴をよく捉えています。細部の表現は曖昧なものが多いようです。豊作を祈る祭りの祭具であり、稲の病虫害などの災いを追い払う模擬戦（戦いの真似事をする）で使われたものと考えられています。青谷上寺地遺跡では、剣形、矛形、戈形、刀形などの武器形木製品が出土しています。

鳥形木製品

鳥が穀霊（穀物に宿る精霊）を運び、豊作をもたらすという信仰にもとづく祭りの道具と考えられています。立体的で具体的な造形のもの、板状で抽象的な表現のものがあり、いずれも青谷上寺地遺跡から出土しています。中には竿の先に装着するために腹部に孔を開けるものもあります。鳥形木製品を取り付けた竿は、集落の神聖な場所に立て並べて区画し、災いの侵入を防いだものといわれています。

船形木製品

船のミニチュア模型で、海の彼方から神を迎える祭りや航海の安全を祈願する祭りに関わる祭具と考えられます。青谷上寺地遺跡出土の船形木製品は、この遺跡の船の特徴を忠実に模倣しており、丸木船と外洋を航行できる準構造船とが区別できるほどです。これほどリアルに船形木製品が作られているおかげで、当時の船の姿を知ることができます。



武器形木製品



鳥形木製品



船形木製品